

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant(s): HYODO, Manabu et al.

Application No.:

Group:

Filed: January 25, 2001

Examiner:

For: DIGITAL CAMERA AND COMPOSITION ASSIST FRAME SELECTING  
METHOD FOR DIGITAL CAMERA



L E T T E R

Assistant Commissioner for Patents  
Box Patent Application  
Washington, D.C. 20231

January 25, 2001  
0879-0297P

Sir:

Under the provisions of 35 USC 119 and 37 CFR 1.55(a), the applicant hereby claims the right of priority based on the following application(s):

<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2000-020355	01/28/00

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to deposit Account No. 02-2448 for any additional fees required under 37 C.F.R. 1.16 or under 37 C.F.R. 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

BIRCH, STEWART, KOLASCH & BIRCH, LLP

By: 

JOHN CASTELLANO  
Reg. No. 35,094  
P. O. Box 747

Falls Church, Virginia 22040-0747

Attachment  
(703) 205-8000  
/cqc

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

BSKB 703-2058000  
HYODO et al  
0879-0297P  
1081



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
in this Office.

出願年月日  
Date of Application:

2000年 1月28日

願番号  
Application Number:

特願2000-020355

願人  
Applicant(s):

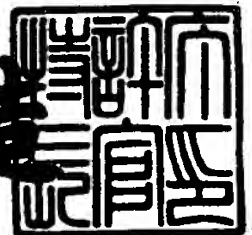
富士写真フイルム株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2000年10月20日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 FJ99-209

【提出日】 平成12年 1月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/225

【発明者】

    【住所又は居所】 埼玉県朝霞市泉水3丁目11番46号  
                         富士写真フイルム株式会社内

    【氏名】 兵藤 学

【発明者】

    【住所又は居所】 埼玉県朝霞市泉水3丁目11番46号  
                         富士写真フイルム株式会社内

    【氏名】 五反田 芳治

【特許出願人】

    【識別番号】 000005201

    【氏名又は名称】 富士写真フイルム株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100083116

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 松浦 憲三

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 012678

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

    【包括委任状番号】 9801416

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 デジタルカメラの構図補助フレーム選択方法及びデジタルカメラ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数の撮影モードを有し、該複数の撮影モードから適宜選択した撮影モードにて撮影を行うデジタルカメラであって、被写体を示す画像を表示する画像表示手段の画面上に、複数の構図補助フレームから選択した 1 つの構図補助フレームを表示し、この構図補助フレームに合わせて被写体のフレーミングが可能なデジタルカメラにおいて、

前記複数の構図補助フレームから 1 つの構図補助フレームを選択する際に、撮影時に選択した撮影モードに応じて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限することを特徴とするデジタルカメラの構図補助フレーム選択方法。

【請求項 2】 被写体を示す画像を表示する画像表示手段の画面上に、複数の構図補助フレームから選択した 1 つの構図補助フレームを表示し、この構図補助フレームに合わせて被写体のフレーミングが可能なデジタルカメラにおいて、

カメラの縦横を検知する検知手段を備え、前記複数の構図補助フレームから 1 つの構図補助フレームを選択する際に、前記検知手段によって検知されたカメラの縦横に応じて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限することを特徴とするデジタルカメラの構図補助フレーム選択方法。

【請求項 3】 複数の撮影モードを有し、該複数の撮影モードから適宜選択した撮影モードにて撮影を行うデジタルカメラであって、被写体を示す画像を表示する画像表示手段の画面上に、複数の構図補助フレームから選択した 1 つの構図補助フレームを表示し、この構図補助フレームに合わせて被写体のフレーミングが可能なデジタルカメラにおいて、

カメラの縦横を検知する検知手段を備え、前記複数の構図補助フレームから 1 つの構図補助フレームを選択する際に、撮影時に選択した撮影モード及び前記検知手段によって検知されたカメラの縦横に応じて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限することを特徴とするデジタルカメラの構

図補助フレーム選択方法。

【請求項4】 前記複数の撮影モードは、オート撮影モード、風景モード、人物モード、及び夜景モードのうちの2以上の撮影モードを含むことを特徴とする請求項1又は3のデジタルカメラの構図補助フレーム選択方法。

【請求項5】 複数の撮影モードから任意の撮影モードを選択する撮影モード選択手段と、

前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに応じて被写体を撮像し、被写体を示す画像信号を出力する撮像手段と、

前記撮像手段から出力される画像信号に基づいて画像を表示する画像表示手段と、

複数の構図補助フレームを記憶する記憶手段と、

前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに基づいて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限する制限手段と、

前記記憶手段に記憶された複数の構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段であって、前記制限手段によって制限された構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段と、

前記構図補助フレーム選択手段によって選択された構図補助フレームを前記画像表示手段の画像上に合成表示させる構図補助フレーム合成手段と、

を備えたことを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項6】 被写体を撮像し、被写体を示す画像信号を出力する撮像手段と、

前記撮像手段から出力される画像信号に基づいて画像を表示する画像表示手段と、

複数の構図補助フレームを記憶する記憶手段と、

カメラの縦横を検知する検知手段と、

前記検知手段によって検知されたカメラの縦横に基づいて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限する制限手段と、

前記記憶手段に記憶された複数の構図補助フレームから1つの構図補助フレ

ムを選択する構図補助フレーム選択手段であって、前記制限手段によって制限された構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段と、

前記構図補助フレーム選択手段によって選択された構図補助フレームを前記画像表示手段の画像上に合成表示させる構図補助フレーム合成手段と、

を備えたことを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項7】 複数の撮影モードから任意の撮影モードを選択する撮影モード選択手段と、

前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに応じて被写体を撮像し、被写体を示す画像信号を出力する撮像手段と、

前記撮像手段から出力される画像信号に基づいて画像を表示する画像表示手段と、

複数の構図補助フレームを記憶する記憶手段と、

カメラの縦横を検知する検知手段と、

前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モード及び前記検知手段によって検知されたカメラの縦横に基づいて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限する制限手段と、

前記記憶手段に記憶された複数の構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段であって、前記制限手段によって制限された構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段と、

前記構図補助フレーム選択手段によって選択された構図補助フレームを前記画像表示手段の画像上に合成表示させる構図補助フレーム合成手段と、

を備えたことを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項8】 前記撮影モード選択手段は、オート撮影モード、風景モード、人物モード、及び夜景モードのうちの2以上の撮影モードから1つの撮影モードを選択することを特徴とする請求項5又は7のデジタルカメラ。

【請求項9】 前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに応じて被写体輝度を測定する分割エリアの重み付けを変えて被写体輝度を測定する

輝度測定手段を有し、前記撮像手段は前記輝度測定手段によって測定された被写体輝度に基づいて露出制御することを特徴とする請求項 5、7 又は 8 のデジタルカメラ。

【請求項 1 0】 前記輝度測定手段は、前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに応じて測定した被写体輝度を補正することを特徴とする請求項 9 のデジタルカメラ。

【請求項 1 1】 前記撮像手段から出力される画像信号を記録媒体に記録する記録手段を有することを特徴とする請求項 5 乃至 1 0 のいずれかに記載のデジタルカメラ。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明はデジタルカメラの構図補助フレーム選択方法及びデジタルカメラに係り、特に複数の撮影モードを有するデジタルカメラの構図補助フレーム選択方法及びデジタルカメラに関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

近年、「ベストフレーミング機能」を搭載したデジタルカメラが提案されている。この「ベストフレーミング機能」は、画像を表示する液晶モニタ上に構図補助フレームを表示し、これにより初心者でもバランスのよい構図で画像を撮影することができるようにする機能である。

【0 0 0 3】

上記構図補助フレームには、液晶モニタ上を縦横に等分割された格子状の罫線からなるフレームや、風景の中に 2 人以上の人物がいる記念撮影をする場合に適したフレームや、1 人の人物を撮影する場合に適したフレーム等があり、これらの構図補助フレームは、撮影者が表示ボタンを押すことにより、液晶モニタ上に表示させることができ、また、マルチファンクションの十字キーを押すごとに構図補助フレームを順次変えて表示することができるようになっている。

【0 0 0 4】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、複数の構図補助フレームから所望の構図補助フレームを選択するのは煩雑であり、特に各種のシーンや縦撮り／横撮りなどに応じて構図補助フレームの数が多くなると、所望の構図補助フレームを選択するのに時間がかかり、シャッターチャンス进行逃すおそれがある。

## 【0 0 0 5】

本発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、複数の構図補助フレームからシーンに適した構図補助フレームを容易に又は自動的に選択することができるデジタルカメラの構図補助フレーム選択方法及びデジタルカメラを提供することを目的とする。

## 【0 0 0 6】

## 【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するために、本願請求項 1 に係る発明は、複数の撮影モードを有し、該複数の撮影モードから適宜選択した撮影モードにて撮影を行うデジタルカメラであって、被写体を示す画像を表示する画像表示手段の画面上に、複数の構図補助フレームから選択した 1 つの構図補助フレームを表示し、この構図補助フレームに合わせて被写体のフレーミングが可能なデジタルカメラにおいて、前記複数の構図補助フレームから 1 つの構図補助フレームを選択する際に、撮影時に選択した撮影モードに応じて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限することを特徴としている。

## 【0 0 0 7】

本願請求項 2 に係る発明は、被写体を示す画像を表示する画像表示手段の画面上に、複数の構図補助フレームから選択した 1 つの構図補助フレームを表示し、この構図補助フレームに合わせて被写体のフレーミングが可能なデジタルカメラにおいて、カメラの縦横を検知する検知手段を備え、前記複数の構図補助フレームから 1 つの構図補助フレームを選択する際に、前記検知手段によって検知されたカメラの縦横に応じて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限することを特徴としている。

## 【0 0 0 8】



本願請求項 3 に係る発明は、複数の撮影モードを有し、該複数の撮影モードから適宜選択した撮影モードにて撮影を行うデジタルカメラであって、被写体を示す画像を表示する画像表示手段の画面上に、複数の構図補助フレームから選択した 1 つの構図補助フレームを表示し、この構図補助フレームに合わせて被写体のフレーミングが可能なデジタルカメラにおいて、カメラの縦横を検知する検知手段を備え、前記複数の構図補助フレームから 1 つの構図補助フレームを選択する際に、撮影時に選択した撮影モード及び前記検知手段によって検知されたカメラの縦横に応じて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限することを特徴としている。

## 【 0 0 0 9 】

前記複数の撮影モードは、本願請求項 4 に示すようにオート撮影モード、風景モード、人物モード、及び夜景モードのうちの 2 以上の撮影モードを含むことを特徴としている。

## 【 0 0 1 0 】

例えば、撮影モードとして風景モードや夜景モードが選択されている場合には、主として風景や夜景の撮影に適した構図補助フレームを選択可能な構図補助フレームとし、撮影モードとして人物モードが選択されている場合には、主として人物の撮影に適した構図補助フレームを選択可能な構図補助フレームとする。また、カメラを横に構えた場合には、横撮りに適した構図補助フレームを選択可能な構図補助フレームとし、カメラを縦に構えた場合には、縦撮りに適した構図補助フレームを選択可能な構図補助フレームとする。

## 【 0 0 1 1 】

このように撮影モードやカメラの縦横に応じて複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを絞り込むことにより、構図補助フレームの選択を容易に又は自動的にできるようにする。

## 【 0 0 1 2 】

本願請求項 5 に係るデジタルカメラは、複数の撮影モードから任意の撮影モードを選択する撮影モード選択手段と、前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに応じて被写体を撮像し、被写体を示す画像信号を出力する撮像手

段と、前記撮像手段から出力される画像信号に基づいて画像を表示する画像表示手段と、複数の構図補助フレームを記憶する記憶手段と、前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに基づいて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限する制限手段と、前記記憶手段に記憶された複数の構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段であって、前記制限手段によって制限された構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段と、前記構図補助フレーム選択手段によって選択された構図補助フレームを前記画像表示手段の画像上に合成表示させる構図補助フレーム合成手段と、を備えたことを特徴としている。

## 【 0 0 1 3 】

本願請求項6に係るデジタルカメラは、被写体を撮像し、被写体を示す画像信号を出力する撮像手段と、前記撮像手段から出力される画像信号に基づいて画像を表示する画像表示手段と、複数の構図補助フレームを記憶する記憶手段と、

カメラの縦横を検知する検知手段と、前記検知手段によって検知されたカメラの縦横に基づいて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限する制限手段と、前記記憶手段に記憶された複数の構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段であって、前記制限手段によって制限された構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段と、前記構図補助フレーム選択手段によって選択された構図補助フレームを前記画像表示手段の画像上に合成表示させる構図補助フレーム合成手段と、を備えたことを特徴としている。

## 【 0 0 1 4 】

本願請求項7に係るデジタルカメラは、複数の撮影モードから任意の撮影モードを選択する撮影モード選択手段と、前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに応じて被写体を撮像し、被写体を示す画像信号を出力する撮像手段と、前記撮像手段から出力される画像信号に基づいて画像を表示する画像表示手段と、複数の構図補助フレームを記憶する記憶手段と、カメラの縦横を検知する検知手段と、前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モード及び前記

検知手段によって検知されたカメラの縦横に基づいて前記複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを制限する制限手段と、前記記憶手段に記憶された複数の構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段であって、前記制限手段によって制限された構図補助フレームから1つの構図補助フレームを選択する構図補助フレーム選択手段と、前記構図補助フレーム選択手段によって選択された構図補助フレームを前記画像表示手段の画像上に合成表示させる構図補助フレーム合成手段と、を備えたことを特徴としている。

## 【0015】

前記撮影モード選択手段は、本願請求項8に示すようにオート撮影モード、風景モード、人物モード、及び夜景モードのうちの2以上の撮影モードから1つの撮影モードを選択することを特徴としている。

## 【0016】

本願請求項9に係るデジタルカメラは、前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに応じて被写体輝度を測定する分割エリアの重み付けを変えて被写体輝度を測定する輝度測定手段を有し、前記撮像手段は前記輝度測定手段によって測定された被写体輝度に基づいて露出制御することを特徴としている。

## 【0017】

前記輝度測定手段は、本願請求項10に示すように前記撮影モード選択手段によって選択された撮影モードに応じて測定した被写体輝度を補正することを特徴としている。

## 【0018】

本願請求項11に係るデジタルカメラは、更に前記撮像手段から出力される画像信号を記録媒体に記録する記録手段を有することを特徴としている。

## 【0019】

## 【発明の実施の形態】

以下添付図面に従って本発明に係るデジタルカメラの構図補助フレーム選択方法及びデジタルカメラの好ましい実施の形態について詳説する。

## 【0020】

図1は本発明に係るデジタルカメラの背面図であり、図2はカメラ上面に設けられたモードダイヤルの平面図である。

【0021】

図2に示すようにモードダイヤル1は、ダイヤル上のアイコン1A～1FがマークMに合うように回転させることにより、連写／ブラケティングモード、マニュアル撮影モード、オート撮影モード、人物モード、風景モード、及び夜景モードのうちのいずれかの撮影モードに設定できるようになっている。尚、図2上では、風景モードが設定されている。また、モードダイヤル1の中央には、半押し時にONするスイッチS1と、全押し時にONするスイッチS2とを有するシャッターボタン2が設けられている。

【0022】

このデジタルカメラの背面には、図1に示すようにファインダ接眼部3、シフトキー4、表示キー5、撮影モード／再生モード切替えレバー6、キャンセルキー7、実行キー8、マルチファンクションの十字キー9、及び液晶モニタ52が設けられている。

【0023】

図3は図1に示したデジタルカメラの内部構成を示すブロック図である。

【0024】

同図において、撮影レンズ10及び絞り12を介して固体撮像素子（CCD）14の受光面に結像された被写体像は、各センサで光の入射光量に応じた量の信号電荷に変換される。このようにして蓄積された信号電荷は、CCD駆動回路16から加えられるリードゲートパルスによってシフトレジスタに読み出され、レジスタ転送パルスによって信号電荷に応じた電圧信号として順次読み出される。尚、このCCD14は、蓄積した信号電荷をシャッターゲートパルスによって掃き出すことができ、これにより電荷の蓄積時間（シャッタースピード）を制御する、いわゆる電子シャッター機能を有している。

【0025】

CCD14から順次読み出された電圧信号は、相関二重サンプリング回路（CDS回路）18に加えられ、ここで各画素ごとのR、G、B信号がサンプリング

ホールドされ、A/D変換器20に加えられる。A/D変換器20は、CDS回路18から順次加えられるR、G、B信号を10ビット（0～1023）のデジタルのR、G、B信号に変換して出力する。尚、CCD駆動回路16、CDS回路18及びA/D変換器20は、タイミング発生回路22から加えられるタイミング信号によって同期して駆動されるようになっている。

## 【0026】

前記A/D変換器20から出力されたR、G、B信号は、一旦メモリ24に格納され、その後、メモリ24に格納されたR、G、B信号は、デジタル信号処理回路26に加えられる。デジタル信号処理回路26は、同時化回路28、ホワイトバランス調整回路30、ガンマ補正回路32、YC信号作成回路34、及びメモリ36から構成されている。

## 【0027】

同時化回路28は、メモリ24から読み出された点順次のR、G、B信号を同時式に変換し、R、G、B信号を同時にホワイトバランス調整回路30に出力する。ホワイトバランス調整回路30は、R、G、B信号のデジタル値をそれぞれ増減するための乗算器30R、30G、30Bから構成されており、R、G、B信号は、それぞれ乗算器30R、30G、30Bに加えられる。乗算器30R、30G、30Bの他の入力には、中央処理装置（CPU）38からホワイトバランス制御するためのホワイトバランス補正值（ゲイン値） $R_g$ 、 $G_g$ 、 $B_g$ が加えられており、乗算器30R、30G、30Bはそれぞれ2入力を乗算し、この乗算によってホワイトバランス調整された $R'$ 、 $G'$ 、 $B'$ 信号をガンマ補正回路32に出力する。尚、CPU38からホワイトバランス調整回路30に加えられるホワイトバランス補正值 $R_g$ 、 $G_g$ 、 $B_g$ の詳細については後述する。

## 【0028】

ガンマ補正回路32は、ホワイトバランス調整された $R'$ 、 $G'$ 、 $B'$ 信号が所望のガンマ特性となるように入出力特性を変更し、また、10ビットの信号が8ビットの信号となるように変更し、YC信号作成回路34に出力する。YC信号作成回路34は、ガンマ補正されたR、G、B信号から輝度信号Yとクロマ信号 $C_r$ 、 $C_b$ とを作成する。これらの輝度信号Yとクロマ信号 $C_r$ 、 $C_b$ （YC

信号) は、メモリ 2 4 と同じメモリ空間のメモリ 3 6 に格納される。

【 0 0 2 9 】

ここで、メモリ 3 6 内の Y C 信号を読み出し、ミクサ 5 1 を介して液晶モニタ 5 2 に出力することにより動画又は静止画を液晶モニタ 5 2 に表示させることができる。また、撮影後の Y C 信号は、圧縮／伸長回路 5 4 によって所定のフォーマットに圧縮されたのち、記録部 5 6 にてメモリカードなどの記録媒体に記録される。更に、再生モード時にはメモリカードなどに記録されている画像データが圧縮／伸長回路 5 4 によって伸長処理された後、ミクサ 5 1 を介して液晶モニタ 5 2 に出力され、液晶モニタ 5 2 に再生画像が表示されるようになっている。

【 0 0 3 0 】

C P U 3 8 は、図 1 に示したモードダイヤル 1、シャッタボタン 2 等を含むカメラ操作部 4 0、カメラの縦横（縦撮り／横撮り）を検出する縦横センサ 4 1 からの入力に基づいて各回路を統括制御するとともに、オートフォーカス、自動露光制御、オートホワイトバランス、撮影時の構図決定を補助するための構図補助フレームの選択指示等の制御を行う。このオートフォーカス制御は、例えば G 信号の高周波成分が最大になるように撮影レンズ 1 0 を移動させるコントラスト A F であり、シャッタボタン 2 の半押し時に G 信号の高周波成分が最大になるように駆動部 4 2 を介して撮影レンズ 1 0 を合焦位置に移動させる。

【 0 0 3 1 】

また、自動露光制御は、図 4 に示すように予め決めた露出①～④にて最大 4 回 R、G、B 信号を取り込み、これらの R、G、B 信号を積算した積算値に基づいて被写体輝度（撮影 E V 値）を求める。

【 0 0 3 2 】

次に、上記撮影 E V 値の測定の詳細について説明する。

【 0 0 3 3 】

図 5 に示すように、1 画面を複数のエリア（ $8 \times 8$ ）に分割し、各分割エリアごとに R、G、B 信号から求めた輝度信号を積算し、その積算値に基づいて各分割エリアの E V 値（ $E V_i$ ）を求める。続いて、図 5 に示すように撮影モードに対応して各分割エリアの E V 値に重み付けを行い、画面全体の E V' 値を次式に

よって算出する。

【0034】

【数1】

$$EV' = \log_2 \{ \sum (W_i \times 2^{EV_i}) / \sum W_i \}$$

但し、 $i : 0 \sim 63$  ( $8 \times 8$ の分割エリアを示す添え字)

$W_i$  : 撮影モードに応じた各分割エリアごとの重み係数

即ち、撮影モードがオート／人物モードの場合には、図5 (A) の重み付け係数に示すように中央重点測光方式となり、風景モードの場合には、図5 (B) に示すように最外周に位置する分割エリアの重み付けを減じた測光方式となり、夜景モードの場合には、図5 (C) に示すように平均測光方式となる。

【0035】

上記のように算出した $EV'$  に対し、更に、次式に示すように撮影モードに応じた露出補正 $\Delta EV$ を行って撮影 $EV$ 値を求める。

【0036】

【数2】

$$EV = EV' - \Delta EV$$

尚、 $\Delta EV$ は、例えば、人物モードの場合には $\Delta EV = 0$ 、風景モード、夜景モードの場合には $\Delta EV = 0.3$ とする。

【0037】

上記のようにして求めた撮影 $EV$ 値に基づいて撮影時の絞り値とシャッタスピードを最終的に決定する。

【0038】

そして、シャッターボタンの全押し時に前記決定した絞り値になるように絞り駆動部44を介して絞り12を駆動し、また、決定したシャッタスピードとなるように電子シャッターによって電荷の蓄積時間を制御する。

【0039】

次に、図6及び図7に示すフローチャートを参照しながらオートホワイトバランス制御方法について説明する。尚、ストロボ46からストロボ光を発光する場合には、ストロボ光に対して良好なホワイトバランスを行うためのホワイトバラ

ンス補正值  $R_g$ 、 $G_g$ 、 $B_g$  がホワイトバランス調整回路 30 に加えられるため、以下、ストロボが発光しない場合のホワイトバランス制御について説明する。

【0040】

図 6 は撮影モードとしてオート／人物モードが選択された場合のオートホワイトバランス制御方法を示す。

【0041】

まず、シャッターボタンの半押し時に求めた撮影 EV 値を取得する（ステップ S10）。

【0042】

続いて、シャッターボタンの全押し時に A/D 変換器 18 から出力された 1 画面分の R、G、B 信号は一旦メモリ 24 に格納されているが、この 1 画面を複数のエリア（ $8 \times 8$ ）に分割し、各分割エリアごとに R、G、B 信号の色別の平均積算値を求め、R 信号の積算値と G 信号の積算値との比  $R/G$ 、及び B 信号の積算値と G 信号の積算値との比  $B/G$  を求める（ステップ S12）。

【0043】

上記のようにして各分割エリアごとに求められる  $R/G$ 、 $B/G$  は、その分割エリアが、図 8 のグラフ上に表された検出枠のうちのいずれの検出枠内に入るかを判別するために使用される。尚、図 6 上における日陰－曇り検出枠、昼光色検出枠等の検出枠は、光源種などの色分布の範囲を規定するものである。

【0044】

尚、各分割エリアごとの R、G、B 信号の平均積算値は、図 3 の積算回路 48 によって算出され、CPU 38 に加えられている。また、積算回路 48 と CPU 38 との間には乗算器 50R、50G、50B が設けられており、乗算器 50R、50G、50B には、機器のバラツキを調整するための調整ゲイン値が加えられるようになっている。

【0045】

次に、日陰－曇りの評価値、蛍光灯（昼光色、昼白色－白色、温白色）の評価値、及びタングステン電球の評価値を、次式、

【0046】



【数3】

日陰-曇りの評価値 =  $F$  (屋外らしさ)  $\times$   $F$  (日陰-曇りらしさ)  $\times$   $F$  (青空)

【0047】

【数4】

昼光色の評価値 =  $F_1$  (屋内らしさ)  $\times$   $F$  (昼光色蛍光灯らしさ)

【0048】

【数5】

昼白色-白色の評価値 =  $F_1$  (屋内らしさ)  $\times$   $F$  (昼白色-白色蛍光灯らしさ)

【0049】

【数6】

温白色の評価値 =  $F_1$  (屋内らしさ)  $\times$   $F$  (温白色蛍光灯らしさ)  $\times$   $F$  (肌)

【0050】

【数7】

電球の評価値 =  $F_2$  (屋内らしさ)  $\times$   $F$  (電球らしさ)  $\times$   $F$  (肌)

に基づいて算出する。

【0051】

上記【数3】式において、 $F$  (屋外らしさ) は、図9に示すようにEV値を変数とする屋外らしさを表すメンバーシップ関数の値であり、ステップS10で取得したEV値に基づいて求めることができる。

【0052】

また、【数4】式乃至【数6】式における $F_1$  (屋内らしさ) は、図12に示すようにEV値を変数とする屋内 (蛍光灯) らしさを表すメンバーシップ関数の値であり、【数7】式における $F_2$  (屋内らしさ) は、図12に示すようにEV値 (カッコ内の数値) を変数とする屋内 (タングステン電球) らしさを表すメンバーシップ関数の値である。尚、図9及び図12に示したEV値は、撮影モードにかかわらず、オート/人物モードにおける中央重点測光モードで測定した値を使用する。

【0053】

〔数3〕式における $F$ （日陰－曇りらしさ）は、分割エリアの $EV$ 値 $E_{vi}$ が12以下の分割エリアであって、図10に示すように日陰－曇り検出枠内に入る分割エリアの個数を変数とする日陰－曇りらしさを表すメンバシップ関数の値であり、 $F$ （青空）は、分割エリアの $EV$ 値 $E_{vi}$ が12.5を越えるエリアであって、図11に示すように屋外晴れ検出枠内に入る分割エリアの個数を変数とする青空を表すメンバシップ関数の値である。

【0054】

尚、 $F$ （青空）は、青空検出枠内に入るエリアの個数が多い程、日陰らしさの評価値を下げる方向に作用する値をとる。また、上記各分割エリアの輝度（ $EV$ 値 $E_{vi}$ ）は、次式、

【0055】

〔数8〕

$$E_{vi} = E_v + \log_2 (G_i / 45)$$

但し、 $E_v$ ：撮影 $EV$ 値

$G_i$ ：各エリアの $G$ の平均積算値

に基づいて計算する。上記式中の45は、 $A/D$ 変換後の値の中での適正值である。

【0056】

同様に、〔数4〕式乃至〔数7〕式における $F$ （昼光色蛍光灯らしさ）、 $F$ （昼白色－白色蛍光灯らしさ）、 $F$ （温白色蛍光灯らしさ）及び $F$ （電球らしさ）は、それぞれ図8に示した昼光色検出枠、昼白色－白色検出枠、温白色検出枠、及びタングステン電球検出枠内に入るエリアの個数を変数とする、図13に示す電球・蛍光灯らしさを表すメンバシップ関数の値である。

【0057】

また、〔数6〕式及び〔数7〕式における $F$ （肌）は、図8に示した肌色検出枠内に入るエリアの個数を変数とする、図14に示す肌色を表すメンバシップ関数の値である。尚、 $F$ （肌）は、肌色検出枠内のエリア数が多くなるにしたがって電球らしさの評価値を下げるように作用する。これは、肌色があるシーンで、タングステン電球色に対するホワイトバランス制御を強くかけると、赤味が飛ん

で白っぽくなり顔色が悪くなるからである。

【 0 0 5 8 】

さて、日陰－曇りの評価値、及び昼光色の評価値、昼白色－白色の評価値、温白色の評価値、電球の評価値が算出されると、これらの5つの評価値のうちの最大値が、0.4以上か否かを判別する（図6のステップS16）。そして、最大値が0.4以上の場合には、その最大値をとる評価値の光源色に適したホワイトバランス補正值に基づくホワイトバランス制御を行う（ステップS18）。

【 0 0 5 9 】

一方、最大値が、0.4未満の場合には、デーライト（晴れ）と判別し、デーライトに適したホワイトバランス補正值に基づくホワイトバランス制御を行う（ステップS20）。

【 0 0 6 0 】

ここで、上記ホワイトバランス補正值は、次式、

【 0 0 6 1 】

【数9】

ホワイトバランス補正值＝（オート設定値－晴れ）×評価値＋晴れ

ただし、晴れは、1.0である。また、オート設定値は、各光源色ごとに予め準備されている。尚、日陰－曇り、昼白色－白色、及びタングステン電球のオート設定値は、次のようにして選択される。

【 0 0 6 2 】

（1）日陰－曇りが選択された場合

図8に示す曇り検出枠内に入る分割エリアの個数と、日陰検出枠内に入る分割エリアの個数とを比べ、個数の多い方のオート設定値を採用する。または、2つのオート設定値に対し、個数の多い領域に重みを大きくしてオート設定値を算出する。

【 0 0 6 3 】

（2）昼白色－白色が選択された場合

図8に示す6領域に分割された昼白色－白色検出枠内に入る分割エリアの個数を比べ、一番個数の多い領域のオート設定値を採用する。または、6つのオート

設定値に対し、個数の多い順に重みを大きくしてオート設定値を算出する。

【0064】

(3) タングステン電球が選択された場合

図8に示す2領域に分割されたタングステン検出枠内に入る分割エリアの個数を比べ、個数の多い方のオート設定値を採用する。または、2つのオート設定値に対し、個数の多い領域に重みを大きくしてオート設定値を算出する。

【0065】

〔数9〕によって求めたホワイトバランス補正値を $R_g$ 、 $G_g$ 、 $B_g$ 、補正する信号を $R$ 、 $G$ 、 $B$ とすると、前記ホワイトバランス調整回路30での補正結果を $R'$ 、 $G'$ 、 $B'$ とすると、 $R'$ 、 $G'$ 、 $B'$ は、次式、

【0066】

〔数10〕

$$R' = R_g \times R$$

$$G' = G_g \times G$$

$$B' = B_g \times B$$

によって表される。

【0067】

図7は撮影モードとして風景モードが選択された場合のオートホワイトバランス制御方法を示す。尚、図7におけるステップS30及びS32における処理は、図6に示したステップS10及びS12と同じため、その説明は省略する。

【0068】

上記ステップS30及びS32で求めたEV値、及び各分割エリアごとに求めた $R/G$ 、 $B/G$ より、前述の〔数3〕式に示した日陰－曇りの評価値を算出する(ステップS34)。尚、図6のステップS14に示した蛍光灯(昼光色、昼白色－白色、温白色)の評価値、及びタングステン電球の評価値の算出は行わない。これは、風景モードの場合には屋外で撮影されるため、蛍光灯や電球等の人工光源を光源種とすることは考えられないからである。

【0069】

続いて、ステップS34で求めた日陰－曇りの評価値が、0.4以上か否かを

判別する（ステップS36）。そして、最大値が0.4以上の場合には、日陰曇り用に準備されているオート設定値に基づいて、ホワイトバランス補正値を求め（〔数9〕式参照）、そのホワイトバランス補正値に基づくホワイトバランス制御を行う（ステップS38）。

【0070】

一方、最大値が、0.4未満の場合には、デライト（晴れ）と判別し、デライトに適したホワイトバランス補正値に基づくホワイトバランス制御を行う（ステップS40）。

【0071】

また、撮影モードとして夜景モードが選択された場合には、オートホワイトバランス制御は行わず、晴れのホワイトバランス補正値に固定する。これにより夜景シーン中に存在する種々の人工光源による影響を受けないホワイトバランス制御を可能にしている。

【0072】

次に、本発明に係るデジタルカメラの構図補助フレーム選択方法について説明する。

【0073】

図3に示したROM（リードオンリーメモリ）55には、液晶モニタ52に表示させるための各種の構図補助フレームを示すフレームデータが記憶されている。

【0074】

図15（A）～（F）は、それぞれ構図補助フレームF1～F6の一例を示す図である。図15（A）及び（B）に示した構図補助フレームF1、F2は、主に風景撮影に使用されるフレームであり、地平線、水平線や、横方向もしくは縦方向に延びる構造物の水平もしくは垂直がきちんと撮れるように構図を決定する際の目安となるフレームである。

【0075】

また、図15（C）～（F）に示した構図補助フレームF3～F6は、主に人物撮影に使用されるフレームで、構図補助フレームF3、F5は横撮り時に使用

されるフレームであり、構図補助フレーム F 3 は、1 人もしくは 2 人程度の人物撮影のフレームに使用されるフレームに対し、構図補助フレーム F 5 は集合写真に使用されるフレームである。また、構図補助フレーム F 4、F 6 は縦撮り時に使用されるフレームである。

## 【 0 0 7 6 】

上記の人物用の構図補助フレーム F 3 ～ F 6 を使用すると、人物は中央に配置される。通常、レンズには歪曲収差があるものが多く、また、レンズの周辺のボケなども有しているが、構図補助フレーム F 3 ～ F 6 を使用することにより、レンズの周辺の品質劣化を避けることができる。また、画像データをプリントするサービスにおいて、周辺がカットされることがあるが、このことから人物を中央に配置するのが好ましい。

## 【 0 0 7 7 】

さて、液晶モニタ 5 2 に構図補助フレームを表示させる場合には、表示キー 5（図 1 参照）を 2 回押す。即ち、表示キー 5 の 1 回目の押下により液晶モニタ 5 2 に被写体を示す動画を表示させ、2 回目の押下により動画に構図補助フレームを合成表示するベストフレーミングモードにする。尚、表示キー 5 の 3 回目の押下により液晶モニタ 5 2 上の表示を消すことができる。

## 【 0 0 7 8 】

ベストフレーミングモードが設定されると、CPU 3 8 からの指令によって ROM 5 5 から適宜の構図補助フレームを示すフレームデータが読み出され、ミクサ 5 1 に加えられる。

## 【 0 0 7 9 】

ミクサ 5 1 にはメモリ 3 6 から動画を示す Y C 信号が加えられており、ミクサ 5 1 は、例えば、Y C 信号のうちの輝度信号 Y に高輝度のフレームデータを混合して液晶モニタ 5 2 に出力する。これにより、液晶モニタ 5 2 には、被写体を示す動画に構図補助フレーム（白線）が合成された合成画像が表示される。

## 【 0 0 8 0 】

次に、ベストフレーミングモード設定時の CPU 3 8 における構図補助フレームの選択指示動作について説明する。

## 【 0 0 8 1 】

CPU38には、図3に示したようにモードダイヤル1、十字キー9等を含むカメラ操作部40及びカメラの縦横（縦撮り／横撮り）を検出する縦横センサ41から操作信号や検出信号が加えられるようになっており、CPU38は、モードダイヤル1からの信号により現在の撮影モードが、風景モード、夜景モード、オート撮影モード、及び人物モードのうちのいずれの撮影モードが設定されているか、また、縦横センサ41からの検出信号により縦撮りか横撮りかを判別する。

## 【 0 0 8 2 】

そして、撮影モード及び縦撮り／横撮りに応じて、図15に示した構図補助フレームF1～F6のうち、次表に示ように選択可能な構図補助フレームを決定する。

## 【 0 0 8 3 】

【表1】

	横撮り	縦撮り
風景／夜景モード	F 1, F 2, F 3	F 1, F 2, F 4
オート撮影モード	F 3, F 5, F 1, F 2	F 4, F 6, F 1, F 2
人物モード	F 5, F 3, F 1	F 6, F 4, F 1

上記【表1】に示すように、撮影モードが風景モード又は夜景モードで、横撮りの場合には、構図補助フレームF1、F2、F3が選択可能なフレームであり、この中から所望のフレームが十字キー9の左右キーによって選択される。即ち、構図補助フレームF1が最初に表示され、その後、右キーがワンプッシュされるごとに、構図補助フレームF2→F3→F1の順に順次表示される。一方、左キーがワンプッシュされると、上記と逆方向に構図補助フレームが順次表示され

る。

【 0 0 8 4 】

同様に、撮影モードが風景モード又は夜景モードで、縦撮りの場合には、構図補助フレーム F 1、F 2、F 4 が選択可能なフレームであり、この中から所望のフレームが十字キー 9 の左右キーによって選択される。

【 0 0 8 5 】

上記のように風景モード又は夜景モードが選択されると、主に風景撮影に使用される構図補助フレーム F 1、F 2 が選択可能となり、更に予備的に構図補助フレーム F 3（横撮りの場合）、構図補助フレーム F 4（縦撮りの場合）も選択できるようになっている。尚、図 1 6 及び図 1 7 は、それぞれ風景モード及び夜景モード時に液晶モニタ 5 2 に構図補助フレーム F 1 が表示されているデジタルカメラの背面図である。

【 0 0 8 6 】

また、撮影モードがオート撮影モードで、横撮りの場合には、構図補助フレーム F 3、F 5、F 1、F 2 が選択可能なフレームであり、縦撮りの場合には、構図補助フレーム F 4、F 6、F 1、F 2 が選択可能なフレームである。即ち、オート撮影モードの場合には、横撮りか縦撮りかに応じて人物撮影に使用される構図補助フレーム F 3、F 5 又は構図補助フレーム F 4、F 6 が選択可能となるとともに、風景撮影に使用される構図補助フレーム F 1、F 2 も選択可能となる。尚、図 1 8 はオート撮影モード時に液晶モニタ 5 2 に構図補助フレーム F 3 が表示されているデジタルカメラの背面図である。

【 0 0 8 7 】

更に、撮影モードが人物モードで、横撮りの場合には、構図補助フレーム F 5、F 3、F 1 が選択可能なフレームであり、縦撮りの場合には、構図補助フレーム F 6、F 4、F 1 が選択可能なフレームである。即ち、人物モードの場合には、横撮りか縦撮りかに応じて人物撮影に使用される構図補助フレーム F 5、F 3 又は構図補助フレーム F 6、F 4 が選択可能となり、更に予備的に構図補助フレーム F 1 も選択できるようになっている。尚、図 1 9 は人物モード時に液晶モニタ 5 2 に構図補助フレーム F 5 が表示されているデジタルカメラの背面図である



## 【 0 0 8 8 】

尚、撮影モード及び縦撮り／横撮りに応じて選択可能な構図補助フレームは、前述した〔表 1〕に示した実施の形態に限らず、例えば、風景／夜景モードの場合には、構図補助フレーム F 1、F 2 とし、人物モードでの縦撮りの場合には構図補助フレーム F 5、F 3 とし、横撮りの場合には構図補助フレーム F 6、F 4 としてもよい。更に、風景／夜景モードの場合には、構図補助フレーム F 1 とし、人物モードでの縦撮りの場合には構図補助フレーム F 5 とし、横撮りの場合には構図補助フレーム F 6 としてもよく、この場合には、撮影モードや縦撮り／横撮りが決定されると、自動的に 1 つの構図補助フレームが決定されることになる。

## 【 0 0 8 9 】

また、構図補助フレームは、図 1 5 に示したものに限定されず、種々のものが考えられる。

## 【 0 0 9 0 】

更に、この実施の形態では、選択された撮影モードと、縦撮り／横撮りとの両方から予め準備されている複数の構図補助フレームから選択可能な構図補助フレームを絞り込むようにしているが、これに限らず、選択された撮影モードのみによってその撮影モードで選択可能な構図補助フレームを絞り込むようにしてもよいし、縦撮り／横撮りのみによって選択可能な構図補助フレームを絞り込むようにしてもよい。

## 【 0 0 9 1 】

## 【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、風景／夜景モード、人物モード等の撮影モードや縦撮り／横撮りに応じて、予め準備されている複数の構図補助フレームのうちから選択可能な構図補助フレームを絞り込むようにしたため、シーンに適した構図補助フレームを容易に又は自動的に選択することができる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【図 1】

本発明に係るデジタルカメラの背面図

【図 2】

図 1 に示したデジタルカメラの上面に設けられたモードダイヤルの平面図

【図 3】

図 1 に示したデジタルカメラの内部構成を示すブロック図

【図 4】

撮影 E V 値の求め方を説明するために用いた図

【図 5】

撮影モード別の測光方式を説明するために用いた図

【図 6】

オートホワイトバランス制御方法を説明するために用いたフローチャート

【図 7】

オートホワイトバランス制御方法を説明するために用いたフローチャート

【図 8】

光源種などの色分布の範囲を示す検出枠を示すグラフ

【図 9】

屋外らしさを表すメンバーシップ関数を示すグラフ

【図 1 0】

日陰・曇りらしさを表すメンバーシップ関数を示すグラフ

【図 1 1】

青空を表すメンバーシップ関数を示すグラフ

【図 1 2】

屋内らしさを表すメンバーシップ関数を示すグラフ

【図 1 3】

電球・蛍光灯らしさを表すメンバーシップ関数を示すグラフ

【図 1 4】

肌色を表すメンバーシップ関数を示すグラフ

【図 1 5】

構図補助フレームの一例を示す図

【図 1 6】

風景モード時に液晶モニタに構図補助フレームが表示されているデジタルカメラの背面図

【図 1 7】

夜景モード時に液晶モニタに構図補助フレームが表示されているデジタルカメラの背面図

【図 1 8】

オート撮影モード時に液晶モニタに構図補助フレームが表示されているデジタルカメラの背面図

【図 1 9】

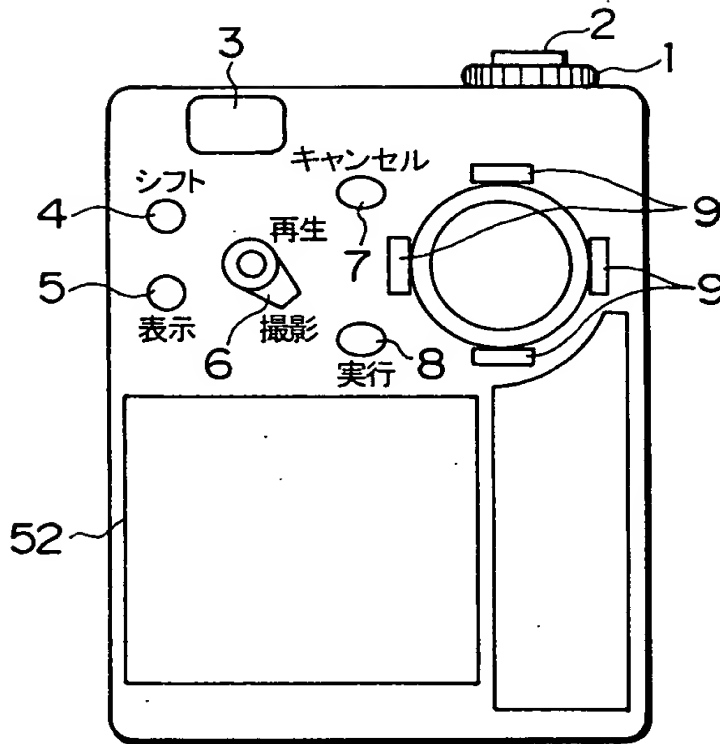
人物モード時に液晶モニタに構図補助フレームが表示されているデジタルカメラの背面図

【符号の説明】

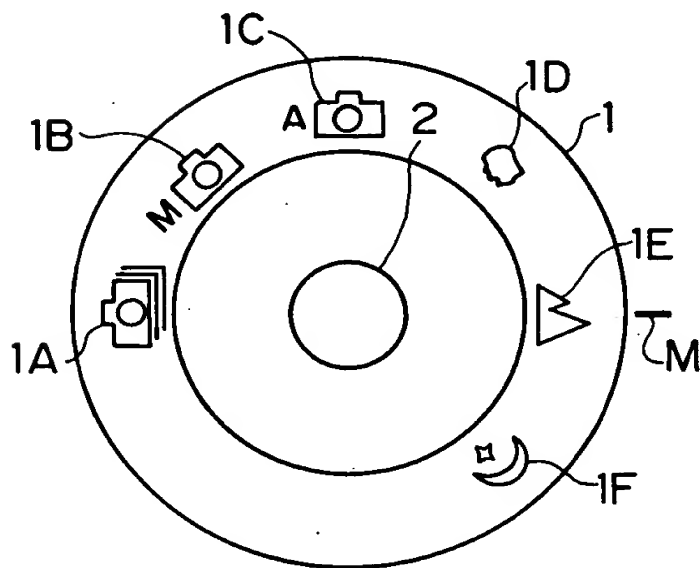
1 …モードダイヤル、2 …シャッターボタン、5 …表示キー、9 …十字キー、10 …撮影レンズ、12 …絞り、14 …固体撮像素子（CCD）、24、36 …メモリ、26 …デジタル信号処理回路、30 …ホワイトバランス調整回路、30R、30G、30B …乗算器、38 …中央処理装置（CPU）、40 …カメラ操作部、41 …縦横センサ、48 …積算回路、51 …ミクサ、52 …液晶モニタ、54 …圧縮／伸長回路、55 …ROM、56 …記録部、F1～F6 …構図補助フレーム

【書類名】 図面

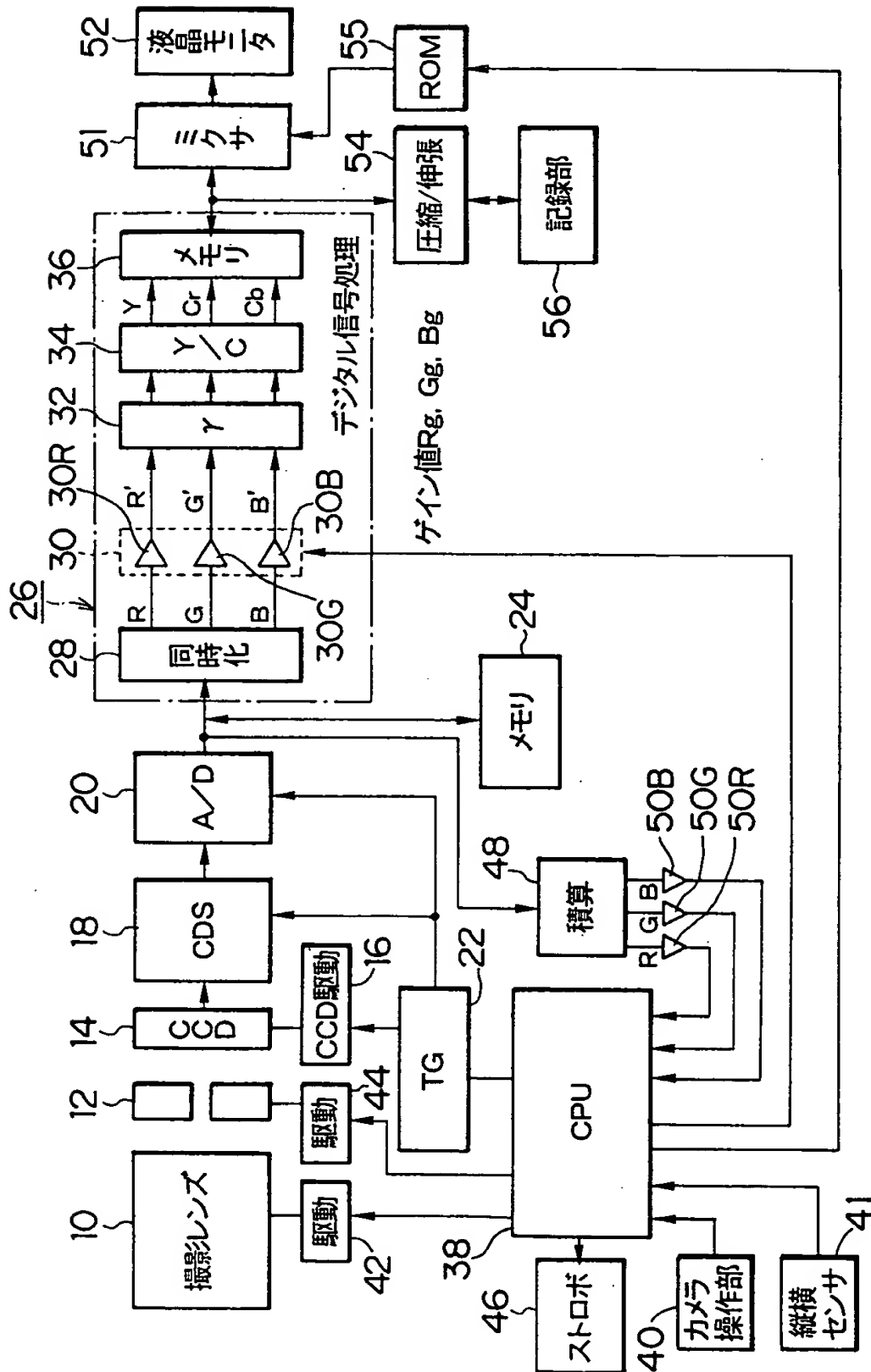
【図 1】



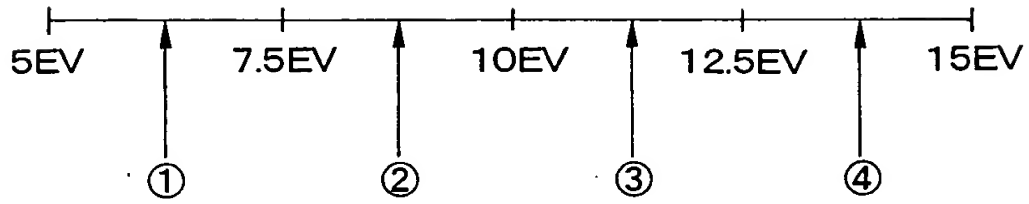
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

(A)

オート/人物の重み付け

1	1	1	1	1	1	1	1
1	4	4	4	4	4	4	1
1	16	32	32	32	32	16	1
1	16	32	64	64	32	16	1
1	16	32	64	64	32	16	1
1	16	32	32	32	32	16	1
1	4	4	4	4	4	4	1
1	1	1	1	1	1	1	1

(B)

風景

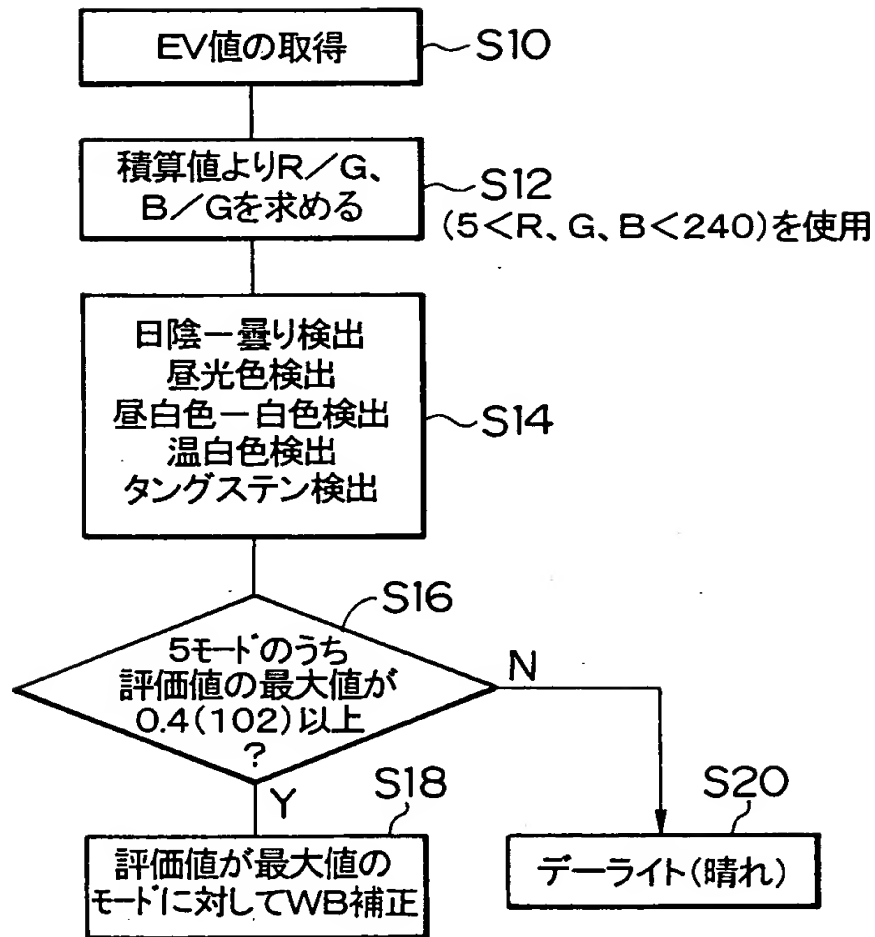
1	3	3	3	3	3	3	1
2	10	10	10	10	10	10	2
3	10	10	10	10	10	10	3
3	10	10	10	10	10	10	3
3	10	10	10	10	10	10	3
3	10	10	10	10	10	10	3
2	10	10	10	10	10	10	2
1	3	3	3	3	3	3	1

(C)

夜景

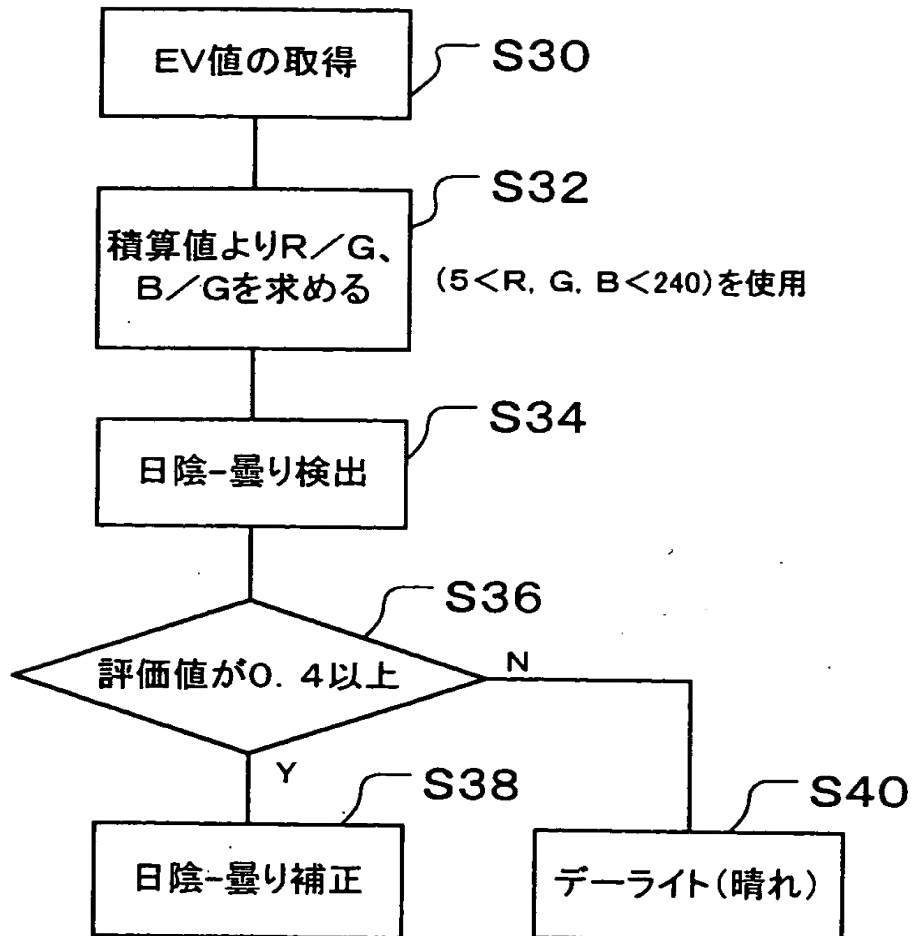
10	10	10	10	10	10	10	10
10	10	10	10	10	10	10	10
10	10	10	10	10	10	10	10
10	10	10	10	10	10	10	10
10	10	10	10	10	10	10	10
10	10	10	10	10	10	10	10
10	10	10	10	10	10	10	10
10	10	10	10	10	10	10	10

【図 6】

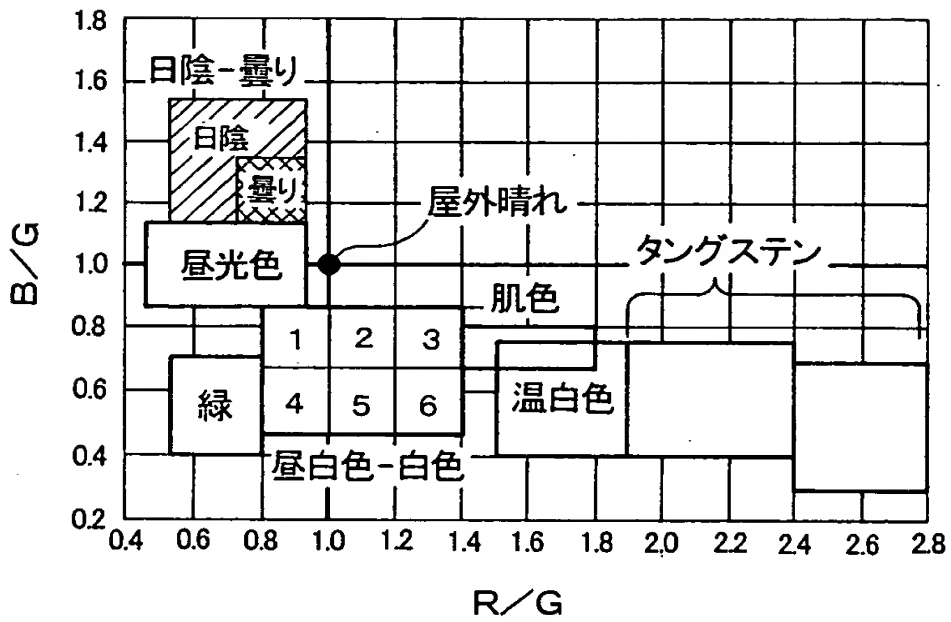




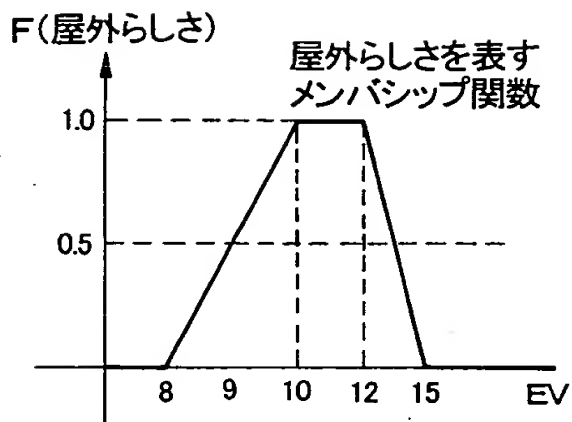
【図 7】



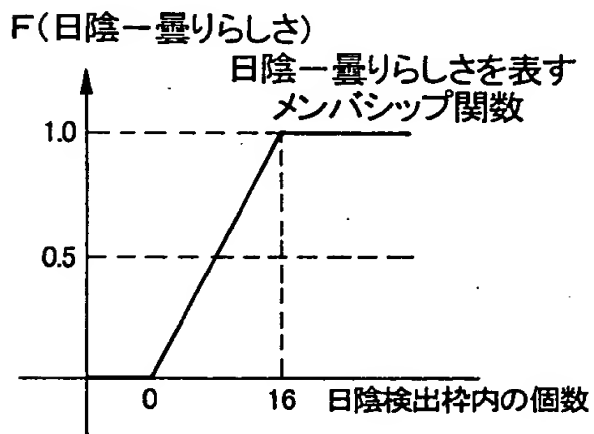
【図 8】



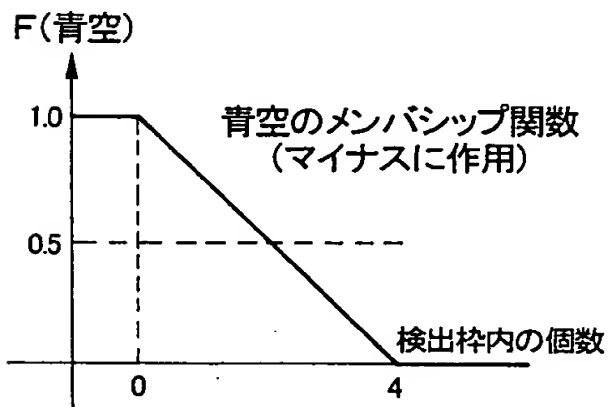
【図 9】



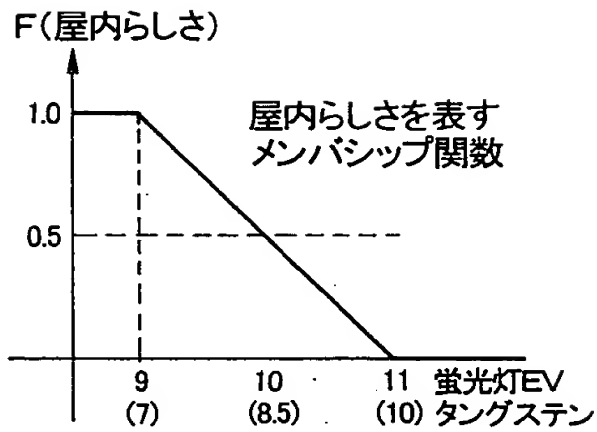
【図 10】



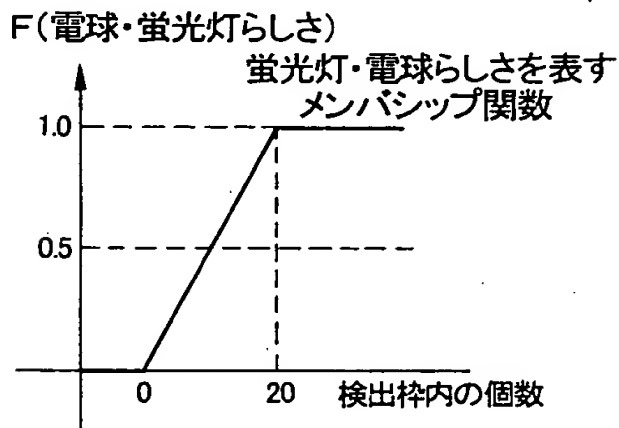
【図 11】



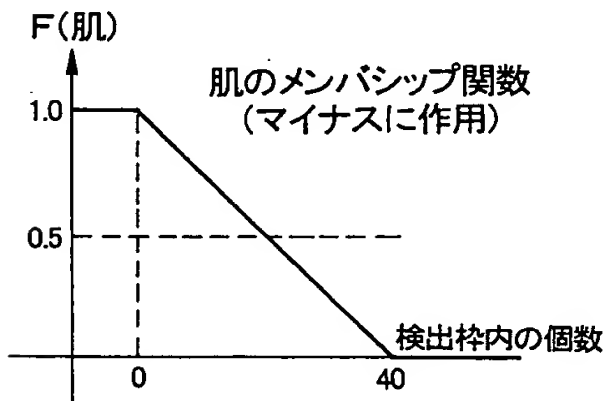
【図 1 2】



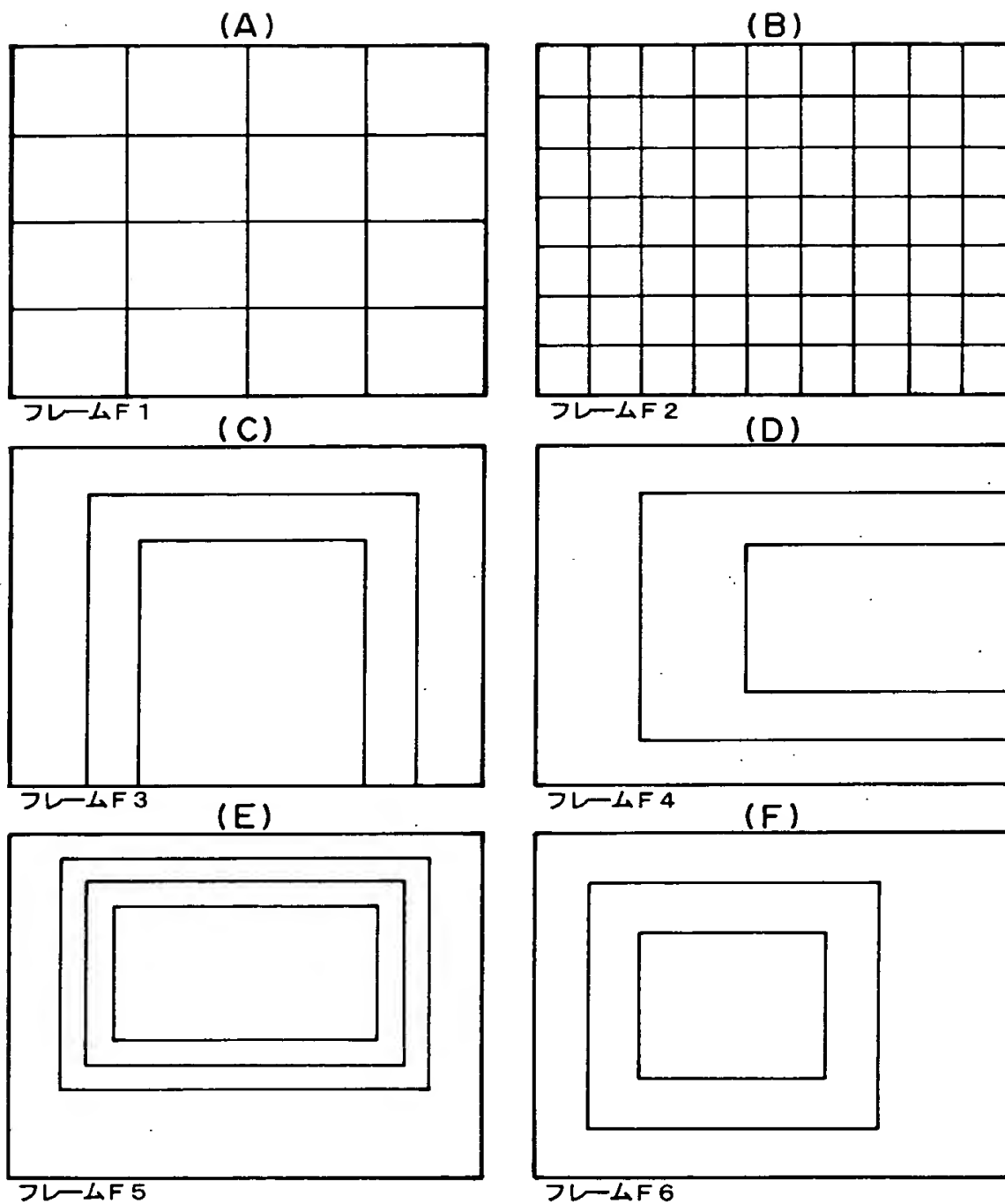
【図 1 3】



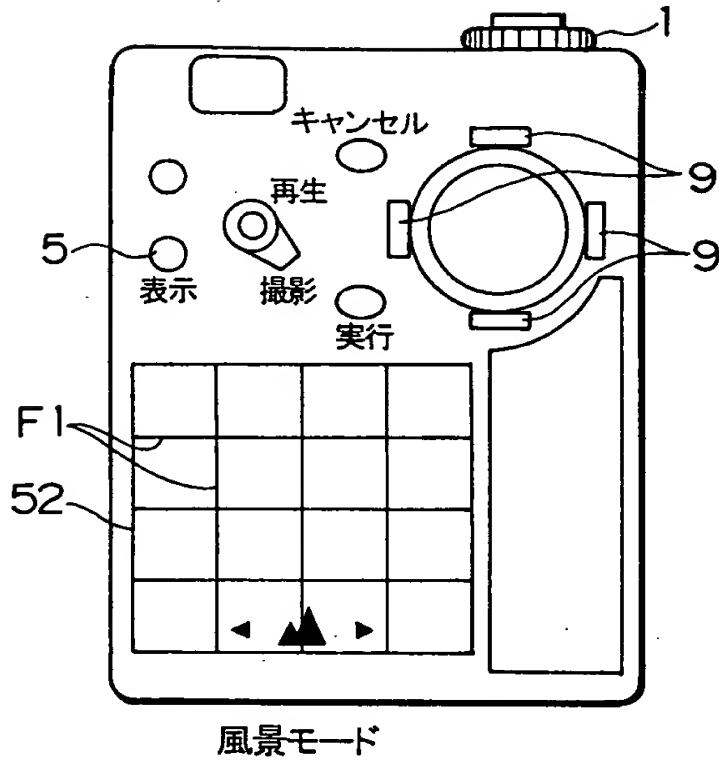
【図 1 4】



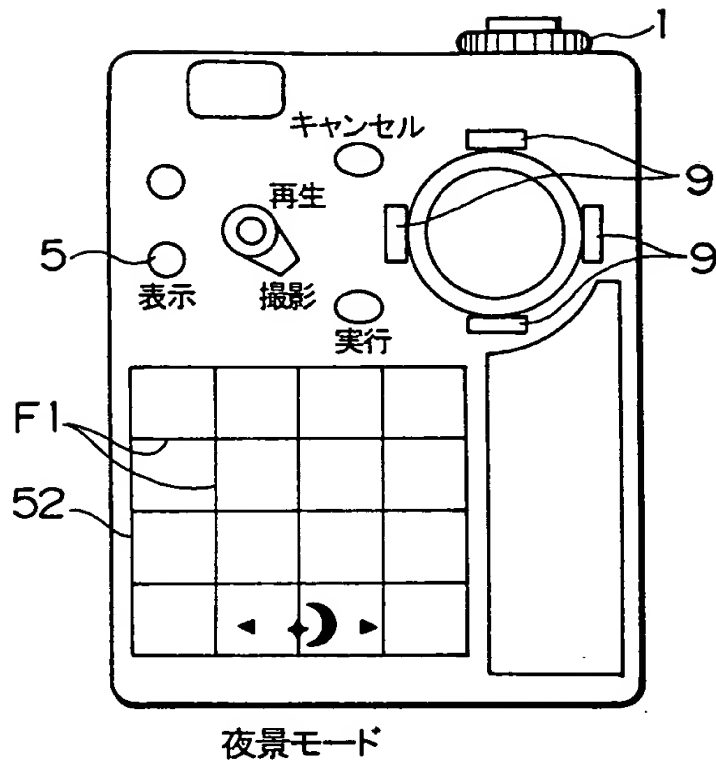
【図 15】



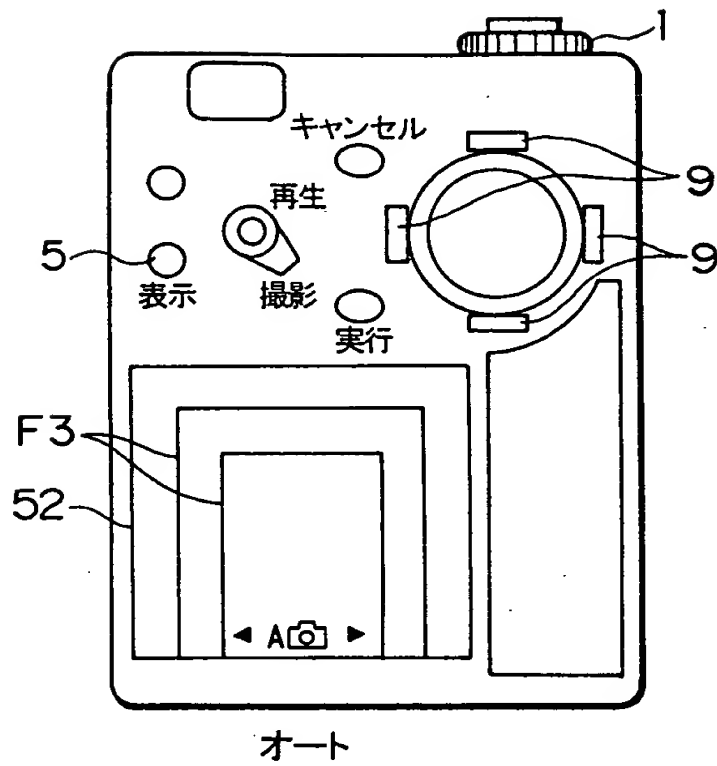
【図 1 6】



【図 17】

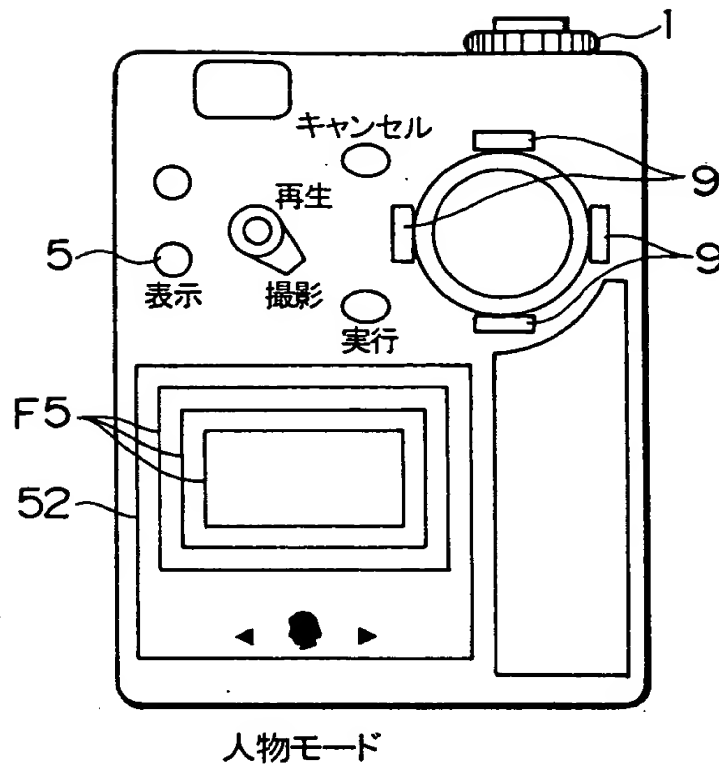


【図18】





【図19】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】複数の構図補助フレームからシーンに適した構図補助フレームを容易に又は自動的に選択できるようにする。

【解決手段】風景モード、夜景モード、人物モード等の複数の撮影モードを有するとともに、液晶モニタ 5 2 上に複数の構図補助フレームから選択した 1 つの構図補助フレームを表示し、この構図補助フレームに合わせて被写体のフレーミングが可能なデジタルカメラである。このデジタルカメラにおいて、モードダイヤル 1 により、例えば人物モードを選択すると、予め準備されている複数の構図補助フレームの中から人物撮影に適した構図補助フレームのみを選択可能とし、これにより撮影者が十字キー 9 の左右キーによって選択する構図補助フレームの数を減らし、人物撮影に適した構図補助フレーム F 5 を容易に又は自動的に選択できるようにしている。

【選択図】 図 1 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 5 2 0 1 ]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 1 4 日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県南足柄市中沼 2 1 0 番地
氏 名	富士写真フイルム株式会社